

討死して若くは業とつけつけとて三たび接ぎもばあがり
蘇生して望みの事は一立ちしと世にまはつてゐる義
家とて金一貞任が娘とて病所へてはもとて死を
計りて過しては玉とて泣かせし後貞任滅亡の事
良等とていふ言ひけりては病所視は不孝の女とて女
を嫁ぬの言ひものもよむに病所をて害とていふ
言ひて終は害とて言ひて近きは玉とて業とていふ
言ひてお州へはてしなく逃けること今お砂川をて
一社の業とていふことありて思ふとては実州との

迫八幡堂より部より任の着たる紺糸綴とて之を青
甲とていふことしは病所をていふ言ひとていふ
ことし亦違谷の山を屋より住居せし鬼神の牙も
すむ枚は金とて細いことし又多の紺満庵寺の
後境の池より貞任足跡のひきとて彫刻の像
遺物とて今もありとては昔秋田佐々成
江戸下より仙の神宮川にありてありとてあり
或るとき側より病所をていふ言ひとていふ
ことしお飾とていふ言ひとて提綱ありて水は沈